

～マインドセットからはじめる～

# 英語で ビジネス コミュニケーション 入門



英検

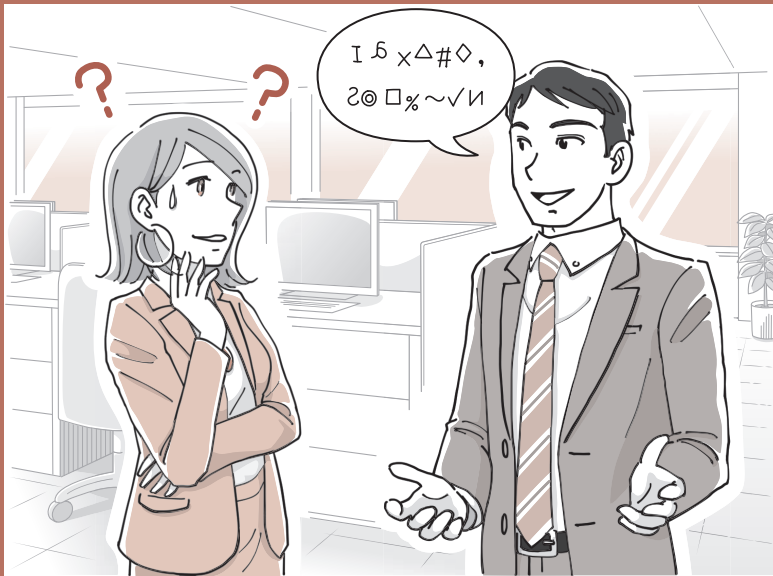
1EGY0-01



# Week 1

## 英語の基本のキ（発音）

「自分が話す英語が理解されない」「英語が聞き取れない」など、英語力に課題がある人が、発音の基礎を学んだだけで、飛躍的に力が伸び、仕事で活躍できるようになることがあります。「カタカナ発音でも伝わる」と意地を張らずに理解される英語に改善しましょう。



## 脱カタカナ英語：子音と母音

### MINDSET AND TIPS

日本人特有の英語の発音を「カタカナ英語」と呼びますが、その一番の特徴は子音に母音がかっついていることです。これは日本語には単体で発音する子音が存在しないために生じる問題です。例えば、“I want to drink something.”をカタカナ英語で発音すると「アイ・ウォント・トゥ・ドリンク・サムシング」のように、一つ一つの子音の後に母音を入れて発音してしまいます。しかし、残念ながらこのカタカナ英語は、なかなか相手に聞き取ってもらえません。少しでも通じる英語が話せるように、まずは母音と子音について理解しましょう。

### 日本語の子音と母音の関係

母音は簡単に言うと「大きな声が出せる音」です。日本語では「あ・い・う・え・お」がそれに当たります。日本語の特徴は、「ん」を除く全ての文字の音が母音で終わることです。ローマ字を使って確認すると、例えば、か行であれば「ka ki ku ke ko」、さ行は「sa shi su se so」のように、必ず母音のa, i, u, e, oが全ての文字に入っていることがわかります。

### 英語の子音と母音の関係

英語の母音も基本は「a, i, u, e, o」の文字を指します。ただし発音は日本語のそれと異なります。子音はアルファベットの母音以外の音を指します。そして、英語の子音は日本語と違い、いつも母音がかっついては発音されません。カタカナ英語からより英語らしい発音に近づけるため、日本語話者は、単体の子音の発音を練習する必要があります。意識して「子音を切り分ける」練習をする必要があります。

### 子音の発音

例えばsickという単語は、「シック」ではありません。正しくは語尾の‘ck’は[ku]ではなく、母音の[u]を入れずに[k]と発音します。しっかりと音を切

ることを意識し、英語の音を日本語の近い音で代用するのはやめましょう。seatとsheetもカタカナ英語ではどちらも「シート」かもしれませんが、[s]と[sh]の音は全く違う音。一つ一つの音を正しく発音することを意識しましょう。長年染み付いたカタカナ英語の癖から脱却することは容易ではないかもしれませんが、正しい発音をすることで聞き手の負担を軽減し、推測や誤解を防ぎ、コミュニケーションをより円滑に運ぶことが可能になります。コミュニケーションは双方の努力が必要。伝える努力の一つとして、正しい発音の習得を目指しましょう。

## 母音の発音

日本語の母音は5つですが、英語は短母音、長母音、二重母音など約20あると言われています。カタカナ英語で「ア」と代用されている音も英語では少なくとも4つの「ア」があります。アップル (apple) とアンブレラ (umbrella) の「ア」は英語では全く違う音です。また短母音や長母音、二重母音も注意したい発音です。これら母音は口の形を変えて発音します。全ての音のルールを覚えるというよりも、聞こえる音をそのままねねるために口の形を変えて音を出し、体に覚えさせるのが発音向上の近道。聞こえたままに、何度もまねをして音を近づけましょう。

### Exercise

A 下の英文の特に下線の箇所<sup>①</sup>に注意しながら音声<sup>②</sup>を聞いて、同じように発音できるよう、声に出して発話練習をしましょう。 🔊 W1-01

1. The thick wood won't sink. / A sick person can't think well.

※thickの[th]は歯と歯の間に軽く舌を置き、息を吐いたときに出る音です。sickの[s]は日本語の「し」とは違います。「スイ」のような音になります。

2. I caught a cold. / I cut an extension cord.

※caughtは「コート」でなく、むしろ「か」に近い音から始まります。coldは「コールド」ではなく、二重母音[ou]が入り、「オウ」に近い音になります。語尾の[d]はカタカナ英語「ド(do)」にならないように注意しましょう。

B 下に記載されている下線部の母音は、カタカナ英語「ア」「オ」で発音される音です。よく聞いて同じように発音できるよう、練習しましょう。 🔊 W1-02

hut-hat-hot    cut-cat-cot    rut-rat-rot

## シュワ [ə] と単語の第1強勢・第2強勢の関係

### MINDSET AND TIPS

正しい英語の発音に近づけるためには、辞書で発音記号を確認しましょう。その中に必ず知っておく必要がある発音記号「シュワ」があります。そして単語の強勢も、言いたいことの意味を伝えるために大切な要素です。この2つをしっかりと理解しましょう。

### シュワ (schwa) とは

シュワ (schwa) とは、[e] を逆さまにした発音記号 [ə] で表す音を指します。日本語では「あいまい母音」とも言われますが、英語において非常に大事な音です。口を半開きにして脱力した感じで発音するととても弱い音ですが、母音の仲間です。英単語では、通常強勢のない箇所の母音はシュワに変化します。正しいシュワの音で発音することがきれいな発音のコツとも言えます。しかしながら5つの母音しか持たない日本語話者にとってはこのシュワが発音しにくく、英語が聞き取れない理由に関連していることが多いのです。

### 第1強勢と第2強勢

単語の発音で大切なのは強勢です。強勢は単語の母音の音に置きます。母音が2つ以上入る単語には2カ所、強勢が置かれます。辞書では通常、その単語の一番強くなる音（第1強勢）は右上から左下に向かったマーク（例：é）で表し、次に強い音（第2強勢）は左上から右下に向かったマーク（例：ì）で示されます。強勢は強く言うというよりは、むしろ「音を長く伸ばして言う」と意識しましょう。例えば、internationalであれば、第1強勢のある[na]の箇所を2拍分くらいの長さで言うイメージです。第2強勢は長く発音する必要はありません。

### 強勢とシュワの関係

強勢を置く母音は、原則シュワの音にはなりません。母音の持つ本来の音で発音します。例として、次の単語を発音記号で見てください。

・ international 【音 節】 in · ter · na · tion · al  
 【発音記号】 in · tər · næ · ʃ(ə) · nəl

・corporation 【音節】 cor・po・ra・tion

【発音記号】 kəˈpɒ·reɪ·ʃən

それぞれの発音を母音の区切りである音節に沿って[・]で分けています。強勢がある箇所には下線を引きましたが、線が引かれていない箇所、つまり強勢がない箇所はシュワの発音になっていることがわかります。シュワの発音箇所ははっきりとした音で発音しないことが上手に聞こえるコツです。

### 第1強勢の移動

名詞と動詞の両方の意味を持つ単語では、強勢の位置が変化することがあります。原則、名詞は第1音節に、動詞は第2音節に強勢があります。どちらが第1強勢か忘れてしまったらピースサインをしてください。ピースサインはVにも数字の2にも見えます。「Vのverb（動詞）は第2音節に強勢」です。

🔗 W1-03

名詞	動詞
contest (コンテスト・大会)	contest (議論する・異議を唱える)
permit (許可証)	permit (許可する)
present (贈り物・現在)	present (発表する)
project (プロジェクト)	project (放映する)
record (記録)	record (録画する・録音する)

このほかによくあるのが、複合語の強勢位置の移動です。複合語は2つの単語が組み合わさって1つの意味を作るものと考えてください。単語を合体させ1つで示す場合にも、そのまま2つの単語で示す場合にも、表記に関係なく複合語は最初の語に強勢を置きます。

🔗 W1-04

- ・software (ソフトウェア)
- ・notebook (ノート)
- ・training center (研修所)
- ・business trip (出張)

### Exercise

A 下の単語の下線のシュワの音に注意しながら音声聞いて、同じように発音できるように、声に出して発話練習をしましょう。

🔗 W1-05

political ※最初の[po-]には強勢がないので、音は「ポ」ではありません。

economy ※最初の[e-]には強勢がないので、音は「エ」ではありません。

B 音声を聞き、名詞と動詞を正しく発音しましょう。

🔗 W1-06

conflict (闘争)                      conflict (矛盾する)

invite (招待状)                      invite (招待する)

produce (農産物)                      produce (生産する)

## 文のリズム 1 : 内容語・機能語

### MINDSET AND TIPS

英語を英語らしく話すためにはリズムが大切です。英語には独特のリズムの取り方があり、そのリズムに乗って英語が話せると英語が伝わりやすくなります。

### 英語のリズムをマスターする

では、英語のリズムをマスターするために、実際にアクティビティーをしてみましょう。まず、手を叩きながらone、two、three、fourと同じリズムで繰り返し言ってください (①)。リズムが取れたら、そのリズムを崩さずに、andを付けて拍と拍の間に組み込んで発話してください (②)。あくまでも手拍子はone、two、three、fourのところで打ちます。だんだんと拍と拍の間に入る単語を増やしてみましょう (③、④)。単語が入れば入るほど言いにくくなるはずですが、どのようにしたらうまく言えるかを考え、工夫してみてください。

🔗 W1-07

	1 拍目	2 拍目	3 拍目	4 拍目
①	one	two	three	four
②	one <b>and</b>	two <b>and</b>	three <b>and</b>	four
③	one <b>and a</b>	two <b>and a</b>	three <b>and a</b>	four
④	one <b>and then a</b>	two <b>and then a</b>	three <b>and then a</b>	four

拍の中にうまく組み込もうとするとandやand a、and then aの音が変わることに気が付きましたか。one and two and ... と言うときには辞書で示される通りのand (エンドウ) の発音ができます。one and a two and a ... となると、「エーンド」のような形でandとaの発音を合体させる必要が出てきます。and then aは「アゼナ」のように音を省略しないと1拍の中に収めることができません。


## 内容語と機能語

one, two, three, fourで拍を取り、その間にそのほかの文字が増えたときの言い方の練習をしました。次は文になったとき、どのようにリズムを取るかを説明しましょう。文中の英単語は、内容語 (content word) か機能語 (function word) に分類されます。内容語は拍に乗って強調される「重要な単語」です。つまり内容語とは「ないとメッセージが伝わらない単語」と考えるといいでしょう。一方、機能語とは、文法的な機能に特化し、単体では意味をなさない語で、通常弱く、そして速く発話されます。‘one and then a ...’に出てきたthenの品詞は本来は副詞ですが、ここでは合いの手のような間投詞的な役割を担っているので、機能語と捉えます。先ほどの例だとone, two, three, fourが内容語で、増やしていった単語が機能語です。

内容語と機能語は主に以下のように分類されています。

内容語	名詞、動詞、形容詞、副詞、疑問詞、指示代名詞、数詞などの情報を伝えるのに重要な単語＋否定の言葉 (can't, haven'tなど)
機能語	助動詞、be動詞、人称代名詞、前置詞、接続詞、関係代名詞、関係副詞、冠詞などの文法的な役割を担っている単語

### Exercise

**A** 下の英文の特に下線のリズムに注意しながら音声聞いて、同じように発音できるように、声に出して発話練習をしましょう。  W1-08

1. The book was interesting.

The new book was interesting.

The new book you gave me was interesting.

2. I can help you.

I can't help you.

※ can'tを強調して対比するために、肯定文では強く発音されるhelpが否定文では若干弱くなります。このような音の変化をマスターすれば、英語らしいリズムで話せます。

3. It's nice to meet you.

I'm honored to meet you.

It's a pleasure to meet you.

**B** 音声に合わせて、上の文をリズムカルに言えるように発話練習をしましょう。

 W1-08





Ms. Eto が伝える

## グローバルビジネス のヒント！①

### ■ LとRは本当に似ているの？

よく似ていると言われる 'l' と 'r' の音ですが、全く異なります。発音するポイントを理解すれば、その違いがわかるでしょう。日本語の音に近いのが、'l' の音です。'l' は、日本語の「らりるれる」の舌の位置を基にして練習すれば、すぐにうまく発音できるようになります。まず、日本語で「らりるれる」と言うとき、舌先は上の歯のつけ根にあたりにありますね。「らりるれる」と何度も言いながら、その舌先を上歯の裏の先（下の歯に限りなく近いところ）に押し当てて、たたきつけるように強く「らりるれる」と言ってみましょう。英語らしい 'la, li, lu, le, lo' になりませんか？ その一方、日本語の音にない音が r です。r の発音は日本語にない口の動きをしないと音が出せません。r の音を出すためには口をすぼめて「ひょっとこ」のように尖らせてください。そしてウーと音を出し続けながら、徐々に舌を持ち上げて、舌の真ん中が高くなるような山の形にしましょう。それが r の音です。日本人からするととても違和感のあるこもった音です。自分で音を使い分けられるようになれば、聞き分けやすくなります。何度も練習してきれいな音が出せるように努力しましょう。

### ■ 発音の思い込みをしていませんか？

カタカナ表記に惑わされず、正しい音を耳から学びましょう。OK を英語で発音してみてください。日本語の「オッケー」と発音していませんか。発音記号は *òukéi*。つまり、最初の音はオウという二重母音なので、OK はオウケイと発音することがわかります。boat も「ボートウ」ではなく、*bóut*（ボウトウ）。また、英語には小さな「ッ」の音（促音）はありません。小さな「ッ」が入っているカタカナ表記の単語の発音には注意が必要です。例えば put を「プット」と書き出すかもしれませんが、これは単に母音が付かない /t/ の表記方法が日本語に存在しないからこのように書き出しているだけであり、決して日本語と同じような「間（ま）」が必要なわけではないのです。soccer も「サッカー」と書き出されますが、間（ま）はなく、*sá:kə*（サーコー）のように長母音+子音で発音します。